

## 学内合同薬局・病院等説明会を開催しました！



説明会の様子（躬行館食堂）

学内合同薬局・病院等説明会は、長期実務実習が終了したあとの今年4月に、薬局や病院・自治体の採用担当者に本学にお越しいただき、学生との接点を持つ場として開催されました。

薬局・病院・公務員への進路を希望する学生にとって、志望先を選定するための一助となることを目的としたこのイベントの様相と、学生や薬局・病院等からの感想などをお伝えします。

6年次生及び5年次生を対象とした学内合同薬局・病院等説明会は、4月8日（日）に本学躬行館食堂とセミナー室を使い、午前と午後での入れ替え制としました。午前33社・施設、午後35社・施設の計68社・施設の薬局・病院等に参加して頂きました。

（詳細は次頁参照）。



説明に耳を傾ける学生（躬行館セミナー室）

2012年度より、学内合同説明会を企業等（製薬・CRO※1・SMO※2）と薬局・病院等に分けて実施しています。今回の合同説明会の参加業種は、薬局・病院等とし、過去の就職実績や情報提供の回数などを基準として選定しました。

今回の合同説明会の特徴は、学生の就職活動において接点の少ない薬局・病院等と、身近な距離で接することができる点にあります。加えて、薬局は食堂で1社ごとに仕切られたブース形式とし、病院等はセミナー室を使用しました。薬局・病院等からは「周囲の音や動きを気にせず、説明や質疑応答に集中することができた」などの感想をいただきました。

当日は、長期実務実習を終えて本格的な就職活動

### CONTENTS

学内合同薬局・病院等説明会を開催しました	1～2
ご挨拶	3
第97回薬剤師国家試験の結果について	4～5
Library News	5
特集 京都薬科大学生涯教育センター設置のお知らせ	6～8
フォン教授による英語セミナーの開講	9
卒業生からのメッセージ	9
2011年度決算について	10～11
2011年度授業評価集計結果の報告	12
2012年度試験関係日程	13～14

2013年度学部入学試験概要	15
2013年度大学院薬科学専攻 博士前期課程入学選考の概要	16
第2回KPUシンポジウム報告書	17～18
平成24年度科学研究費助成事業 採択状況	19～20
採択・受賞	20～23
お知らせ	23
京薬会だより	24
京都薬科大学奨学寄附金ご芳名録	24

を開始した6年次生と、来年度の就職を見据えた5年次生が、この貴重な機会を活用しようと集まりました。6年次生は延べ307名、5年次生は延べ77名、全体で延べ384名が参加しました。姿勢を正し、メモを取りながら熱心に説明に耳を傾ける学生の姿が印象的でした。積極的に質問する光景も多々あり、時には説明終了後も個別に質問するなど、様々な可能性を模索している緊張感が伝わりました。

参加した6年次生からの声として、「様々な薬局・病院等の話を聞くことができ、比較することができた」、「少人数制で薬局・病院等の方々との距離が近く、直接お話ができた」、「資料だけでは分からない点について、詳しく丁寧に説明してもらえた」などの意見が挙がっています。また、5年次生からは、「真剣な6年次生と一緒に話を聞くことができ、就職活動のイメージができた」、「今後の実務実習に少しでも活かしたい」などの感想があり、この機会を充実したものにできたようです。

※1 CRO：開発業務受託機関。企業が行う医薬品等の開発に関する様々な業務を受託する機関。

※2 SMO：治験施設支援機関。医療機関が実施する治験に関する各種手続や実施する医師等を支援する機関。

薬局・病院等からは、「学生が礼儀正しく熱心であり、説明内容により一層の工夫を加えようと思う」「会場が開放的で雰囲気よかった」などの感想が寄せられました。

しかしながら、学生や薬局・病院等からの主な不満点として挙げたのが、ブースによって説明時間にばらつきがあったことです。説明終了のタイミングでチャイムが鳴る設定をしましたが、終了のタイミングが統一されず、結果として説明の終了待ちの学生が散見されました。今後はスケジュールをより明確に設定し、学生と薬局・病院等の双方に周知徹底を図るなどの工夫を行おうと思います。

進路支援部では、今後も就職環境の動向把握に努め、学生や薬局・病院等のご意見をいただきながら、説明会をより有意義な機会にしていきたいと考えています。この機会を活かし、学生が充実した就職活動に臨めることを願っています。

業種名	参加薬局・病院等 名称	業種名	参加薬局・病院等 名称
病院	綾部市立病院	保険薬局	ファーマシィ
病院	市立長浜病院	保険薬局	ファーマホールディング
病院	倉敷中央病院	保険薬局	ファーマライズホールディングス
病院	神戸市立医療センター中央市民病院	保険薬局	ファルコファーマシーズ
病院	生長会	保険薬局	ファルメディコ
病院	正光会 松ヶ丘病院	保険薬局	ブルークロス
病院	蘇生会総合病院	保険薬局	フロンティア
病院	武田病院グループ	保険薬局	法円坂メディカル
病院	徳洲会グループ	保険薬局	ぼうしや薬局
病院	舞鶴共済病院	保険薬局	マルゼン薬局
病院	松下記念病院	保険薬局	みやこ薬局
病院	洛和会ヘルスケアシステム	保険薬局	メディカルー光
保険薬局	アイングループ	保険薬局	ゆう薬局グループ
保険薬局	アピスファーマシー	ドラッグストア	イオンリテール
保険薬局	エスマイル	ドラッグストア	キリン堂
保険薬局	オーバス サエラ薬局	ドラッグストア	クスリのアオキ
保険薬局	関西メディコ	ドラッグストア	クリエイト エス・ディー
保険薬局	京都民医連薬局	ドラッグストア	グローウェルホールディングス
保険薬局	クオール	ドラッグストア	コクミン
保険薬局	クラフト	ドラッグストア	サンドラッググループ
保険薬局	グリーンファーマシー	ドラッグストア	ザグザグ
保険薬局	サンブラザ調剤薬局	ドラッグストア	ジップドラッグ
保険薬局	ジャパンファーマシー	ドラッグストア	スギ薬局
保険薬局	J.みらいメディカル	ドラッグストア	スギヤマ薬品
保険薬局	総合メディカル	ドラッグストア	セイジョー
保険薬局	たんぼほ薬局	ドラッグストア	セガミメディクス
保険薬局	ダイゴ ヤクコ薬局	ドラッグストア	ハーティウォンツ
保険薬局	富永調剤薬局	ドラッグストア	マツモトキヨシ
保険薬局	ナガタ薬品	ドラッグストア	ユタカファーマシー
保険薬局	ニチホス	ドラッグストア	ライフォート
保険薬局	日本調剤	公務員	大阪府
保険薬局	はいやく	公務員	京都市
保険薬局	阪神調剤薬局	公務員	京都府
保険薬局	ファークロス	その他	山口県薬剤師会

## 新任のご挨拶



生命薬科学系  
病態生理学分野  
教授 芦原 英司

平成24年4月1日付にて、病態生理学分野に着任いたしました。私は昭和62年京都府立医科大学を卒業後、同大学第二内科に入局し府立医大病院にて研修を受けました。平成元年より社会保険神戸中央病院にて内科医として勤務し、平成3年に修練医として帰学、血液内科学を専攻いたしました。その後米国ニューヨーク血液センターへ留学し、再度府立医大病院輸血部修練医として勤務いたしました。平成7年より京都府立洛東病院にて一般内科医として勤務するとともに、府立医大助手、学内講師として、学生、研修医の教育に携わってまいりました。平成15年9月より、京都大学医学部附属病院探索医療センター助手として、重症心不全への細胞移植プロジェクトに参画し、平成17年からは京大病院輸血細胞治療部助教、院内講師として勤務いたしました。平成22年から本年3月まで京都府立医科大学細胞生理学講師として、教育・研究に携わってまいりました。

私は“患者さんに適切な医療を如何に提供できるか？”を考え臨床・研究に従事し、特に研究生活が主であった時期には、新規治療の開発、創薬研究を行ってまいりました。先代の谷口隆之教授はじめ、歴代の教授の先生方が築いてこられた病態生理学分野（旧生物学教室）を、北村佳久准教授、高田和幸助教、分野配属の学生さんたち、教育補助臨時職員、河崎さんとともにさらに発展させ、トランスレーショナル リサーチのための基盤研究を通じ、京都薬科大学発の新規薬剤、新規治療法を開発していきたいと考えております。

今の学生さんたちには、臨床現場での仕事のほか、先進医療開発のための受託臨床試験機関(CRO)や再生医療のための細胞処理センター、など、多くの職場で活躍できる夢が広がっております。国家試験に合格し国家免許をいただくことは当然のことですが、本学の学生さんたちを人間的に、かつ学問的に伸ばし、彼ら・彼女らの可能性、夢を広げ、多くの医療現場で社会貢献でき、将来の京都薬科大学を背負う“人財”を育成していきたいと考えております。皆様方のご指導、ご鞭撻を賜りますよう、どうぞよろしくごお願い申し上げます。



病態薬科学系  
薬理学分野  
教授 大矢 進

本年4月1日付で薬理学分野に着任いたしました。私は、平成4年に名古屋市立大学薬学部を卒業後、同大学院博士課程に進学し、平成7年より同大学助手として勤務しました。また、平成17年から助教授（平成19年に准教授）として教育、研究に励んで参りました。その間、平成12年に博士号を取得し、平成13年から1年間、米国ネバダ大学医学部生理学講座にて研究する機会に恵まれました。指導薬剤師の育成、医療従事者の学び直し講座、薬局薬剤師の生涯学習に積極的に参画してきた経験を活かし、京都薬科大学の教育、研究に貢献したいと思っております。

私の研究課題は「イオンチャンネル（特に、カリウムチャンネル）の分子薬理学研究」です。イオンチャンネル作用薬は、循環器病治療薬や糖尿病治療薬として臨床適応されていますが、現在、中枢神経系疾患、アレルギー性疾患、炎症性疾患、癌の治療法としても期待されています。実際に、カリウムチャンネル活性化薬は高血圧症、気道過敏症、排尿困難、勃起不全、てんかんの治療薬として、カリウムチャンネル阻害薬は多発性硬化症、関節リウマチのような自己免疫疾患や大腸癌・乳癌をはじめとする癌の治療薬として期待されています。学生達が、イオンチャンネル研究を通して、薬理学をはじめ、分子生物学、免疫化学、細胞生物学の幅広い知識、実験手技を身に付け、自信に満ちた社会人として活躍できるような研究体制を構築したいと思っております。

赴任して1ヶ月が経ちましたが、本学の学生達に「愛学躬行」の精神が深く浸透しているのを実感しております。学生達がこれまで育んできた自立心をさらなる向上心に結び付けられるよう、次世代の薬学教育、研究の実現にチャンレンジしたいと思っております。微力ではありますが、本学の発展のために尽力する所存でございますので、今後ともご指導とご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

# 第97回薬剤師国家試験の結果について

薬学教育研究センター 准教授 細井 信造

## <6年制薬剤師国家試験>

当該試験においては、薬剤師資格を有する者として必要とされる基本的な知識等のほか、薬学の全領域に及ぶ一般的な理論は言うまでもなく、医療を中心とした実践の場において必要とされる知識・技

能・態度が問われます。なお、新薬剤師国家試験の概要（科目、問題区分、出題数等）につきましては、KPU<sub>NEWS</sub>2011年4月号（No. 165）をご参照ください。

## <第97回薬剤師国家試験の結果>

表1. 国・公・私別合格率

区分	総数			6年制卒			その他		
	受験者	合格者	合格率	受験者	合格者	合格率	受験者	合格者	合格率
国立	610	498	81.64%	484	455	94.01%	126	43	34.13%
公立	232	207	89.22%	198	190	95.96%	34	17	50.00%
私立	8,935	7,933	88.79%	7,901	7,537	95.39%	1,034	396	38.30%
その他	8	3	37.50%	—	—	—	8	3	37.50%
計	9,785	8,641	88.31%	8,583	8,182	95.33%	1,202	459	38.19%
本学	339	316	93.22%	319	310	97.18%	20	6	30.00%

2012年（平成24年）3月3・4日に6年制薬学のはじめの国家試験である第97回薬剤師国家試験が実施されました。この試験では、国公私併せて66大学の学生が受験し、受験者総数9,785名中、合格者は8,641名（合格率88.31%）でした。そのうち6年制新卒の全国合格率は95.33%と高い合格率でした。しかし、4年制既卒者の合格率は38.19%と近年では最も低いものでした。6年制でも今後既卒者の合格率は低くなる恐れがありますので細心の注意が必要です。上表に示しますように、本学では、新卒者319名が受験し、合格者は310名（合格率97.18%）、既卒者は20名が受験し、合格者は6名（合格率30.0%）で、総合合格率は93.22%でした。

6年制の薬剤師国家試験では、次の理由から合格率が低くなるのではと予想されていました。1) 6年制の試験では、345題へと問題数が増加すること、2) 新しく実務に重点を置いたより実践的な能力が問われる複合問題が150題出題されること、3) 合

格基準が、必須問題で総合70%以上、各科目で50%以上、一般問題で35%以上と、4年制国試より厳しいものとなっていることが挙げられました。ところが、このような予想に反して、高い合格率となりました。その理由として、問題が全般的に平易であったことが考えられます。さらに、各大学とも受験させる学生を厳しく絞ったようで、これが全国的な合格率を上昇させた一因と考えられます。

次に、今春卒業した本学学生の学業成績（専門必修科目の評定平均）と国試合否との関係を調べてみました。表2に示しますように、評定平均75点以上の卒業生は全員合格していますし、それ以下の学生層での不合格者が目立ちます。このことから、1年次から6年次までの学業成績と国試の合否との間に明確な相関が見てとれます。つまり、日ごろの勉学を怠らないことが必須のことですが、残念ながら評定平均が芳しくない学生が国試の合格を目指すには、6年次の早期からの準備と一層の努力が必要と言えます。

表2. 評定平均と合否との関係

評定平均	学生数	卒業者数	合格者	不合格者	未受験者
95点以上	1	1	1	0	0
90点以上95点未満	2	2	2	0	0
85点以上90点未満	16	16	16	0	0
80点以上85点未満	56	56	55	0	1
75点以上80点未満	95	94	94	0	0
70点以上75点未満	115	109	106	3	0
65点以上70点未満	50	41	35	6	0
60点以上65点未満	2	1	1	0	0

6年制薬学部の1期生から、今後の教育および国家試験対策に活用する目的で、国家試験の解答データの協力を要請したところ、319名の受験者中156名の協力がありました。表3に示しますように、総合正答率は80.1%と合格基準（65%）を大幅に上回って

ます。しかし、平均正答率30%未満の問題が、必須問題で2題、薬学理論問題で10題、薬学実践問題で6題ありました。特に、一般問題の衛生の正答率は他の科目に比べて低いものでした。その理由として、新傾向の問題が出題されたことが考えられます。

表3. 科目別平均正答率

問題区分	必須問題							
	物理 ・化学 ・生物	衛生	薬理	薬剤	病態・ 薬物 治療	法規 ・制度 ・倫理	実務	合計
配当問題数	15	10	15	15	15	10	10	90
最低点	10	5	12	9	9	7	5	65
平均点	14.15	8.35	14.05	12.28	13.25	9.47	9.29	80.83
最高点	15	10	15	15	15	10	10	88
平均正答率	94.30%	83.50%	93.70%	81.80%	88.30%	94.70%	92.90%	89.80%
問題区分	一般問題							
科目	物理 ・化学 ・生物	衛生	薬理	薬剤	病態・ 薬物 治療	法規 ・制度 ・倫理	実務	総合計
配当問題数	45	30	25	25	25	20	85	345
最低点	18	7	13	10	11	12	54	207
平均点	32.98	17.79	23.1	19.91	16.54	17.01	68.26	276.43
最高点	42	24	25	25	24	20	79	316
平均正答率	73.30%	59.30%	92.40%	79.60%	66.20%	85.10%	80.30%	80.10%

＜第98回薬剤師国家試験に向けて＞

今回の国家試験問題の難易度は上昇し、合格率は10%程度低下すると予想されます。その根拠とは、第90回(2005年)国試と第91回の合格率の変動にあります。出題基準の大幅な変更が行われた第90回国試の出題問題は比較的平易であったことから、本学新卒の合格率は98.65%でありました。しかし、翌年の第91回では問題の難易度が上がり、合格率が85.99%

と大幅に低下しました。

第97回国試の合格率の高さは、第1期生の先輩が一生懸命に勉強したことからの結果です。第98回国試を受験する現6年次生は、第97回国試の合格率の高さに安心すべきではありません。特に学業成績が芳しくない学生は、今から真剣に勉強に取り組む必要があります。



図書館

開館日程

2012年 7月

2012年 8月

2012年 9月

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30	31				

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	31	

日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30						

休館

9:00-20:00

9:00-17:00

10:00-17:00

休館=館内整備

学生の皆さんは本学の「教育理念」と「教育目的」を知っているはずである。もし知らないのなら、『学生便覧』の1頁を見て頂きたい。この「教育理念と教育目的」を実現するために、本学は6年間一貫した教育を実践することで「研究能力を有する薬剤師すなわちファーマシスト・サイエンティストの育成」を目指していることは、乾学長の言葉で、皆さんは十分に承知しているはずである。2012年はその「理念と目的」を具現化する6年制の第一期生が旅立った記念すべき年である。

この記念すべき年にあたり、本学は「生涯教育センター」を設置することにより、卒業後も医療に関する最新の知識と技能の飽くなき獲得そして生涯に亘る自己研鑽を理念とする薬剤師を育て上げるプログラムを実施することとなった。この「生涯教育センター」のスタートを学内外に明示するために、4月には「キックオフ・シンポジウム」が開かれ、その概要とそれに対する反響もここに述べられている。

学生の皆さんは、このシンポジウムに参加した先輩の方々のご意見をしっかりと読み取ることで、今後の勉学の励みとしてほしい。

京都薬科大学では、1976年度より京薬会（同窓会組織）との共催により卒後教育講座を開講し、2011年度で36年目を迎えました。

近年、医療が高度化するなかで、薬剤師は言うまでもなく医療関係者には更なる資質向上が求められています。

これに伴い、京都薬科大学では本学が有する薬学に関する学問的知識および技能を習得する機会を提供し、薬剤師等の資質向上に寄与することを目的として、2011年11月1日付けで「生涯教育センター」を設置しました。今後卒後教育講座および研究・実務支援セミナー等について大学主導で取り組み、薬剤師等の資質向上と生涯教育に寄与して参りますので、よろしくお願い申し上げます。

生涯教育センターのスタートとして、以下のキックオフ・シンポジウムを開催しました。

**【1】生涯教育センター キックオフ・シンポジウム**

日時：2012年4月15日（日）

13:00～17:30（受付12:00～）

場所：京都薬科大学 躬行館 T31 講義室

会費：1,000円（定員360名）

研修単位：2単位

（日本薬剤師研修センター認定単位）

主題：次世代の薬剤師に求められる職能とは？

目的：社会の高齢化や医療の高度化とともに、薬剤師の職能への期待はますます大きくなっている。また、6年制薬学教育を修得した薬剤師の臨床現場での活動も始まることから、薬剤師職能に対してさらなるイノベーションが望まれているのも事実であろう。そこで、次世代の薬剤師に求められる職能を理解し、それらを見据えた対策やスキルの修得が必要ではないだろうか。本シンポジウムでは、次世代を担う薬剤師に対して求められる職能やスキルについて考える機会を提供したい。

**スケジュール**

開会挨拶 乾 賢一（京都薬科大学 学長）（15分）

講演（発表と質疑50分×4名、計200分）

講演1： 薬局3.0から薬剤師3.0へ

薬学教育6年制時代に求められる

パラダイムシフト

狭間 研至 先生

（ファルメディコ（株）代表取締役社長）

講演2： 次世代の病院薬剤師像

～医療都市に描く夢～

橋田 亨 先生

（神戸市立医療センター中央市民病院

院長補佐・薬剤部長）

休憩（15分）

講演3： 次世代の薬剤師に望むこと

－医師の立場から

松村 理司 先生

（医療法人社団洛和会

洛和会音羽病院 院長）

講演4： 一般市民の薬剤師に対するイメージと

次世代に期待される職能

北澤 京子 先生

（日経BP社 日経メディカル／

日経ドラッグインフォメーション

編集委員）

総合討論（30分）

座長 西口 工司（京都薬科大学 教授）

閉会挨拶（10分）

谷口 隆之（京都薬科大学 生涯教育センター長）

## 【2】キックオフ・シンポジウムを終えて

4月15日（日）京都薬科大学躬行館において、「生涯教育センター」キックオフ・シンポジウム メインテーマ「次世代の薬剤師に求められる職能とは？」が開催されました。医師で薬局経営者の狭間 研至先生、病院薬剤部長の橋田 亨先生、病院院長の松村理司先生、ジャーナリストの北澤 京子先生が、それぞれのお立場でメインテーマについてお話いただき、総合討論では白熱した議論も交わされました。

午後1時より午後5時30分までという長時間にもかかわらず、200名を越える参加がありました。参加者からは、「本年より京薬の生涯教育が変わると伺い、本日、最初のシンポジウムに参加させていただきました。相づちの打てる様な現状を改めて認識するとともに、これからの課題をより一層はつきりさせて下さったシンポジウムだと思いました」、「薬剤師に求められる業務役割についてお話いただき、身の引き締まる思いがした」、「素晴らしい理想の薬剤師像のお話に感動」、「何か一つでも患者さんのために出来るよう、頑張ろうと元気になる内容でした」、「これからの薬剤師はビジョンをもち、目指していかなければならないことを再認識した」、「6年制薬学教育の課程を受けた初めての薬剤師が出て来たこの時期に、内容的にも非常にタイムリーな企画であった」、「異なるフィールドで活躍されている先生方が、薬剤師の今後の将来性・方向性について同じベクトルであることに大変感銘を受け、勇気づけら

れました」、「これからの薬剤師に希望が持てるようになりました」、「今後の薬剤師として行くべきこと、また教育についても大変参考になる意見を聞くことができ、素晴らしいプログラムでした」、「6年制薬剤師の動向が気になるベストタイムに、素晴らしく前向きになれるお話をありがとうございました。医師から意見を求められる様な薬剤師として活躍するためには6年でも足りなく、フォローアップして学んでいく必要性を感じます。温故知新、まさにキックオフでした」、「大変貴重な講演ありがたく聞かせていただきました。久しぶりの母校でなつかしい思いでした」、「講演者が多様かつそれぞれの分野のリーダー・エキスパートであり、全ての講演が具体的かつ実例を示した示唆的な内容に富み、非常に有意義であったと思う」、「私は患者さんと一番近いところにいたいと考えているので、チーム医療の中でキッチリと存在感を示せる薬剤師になりたいと思う」、「非常に有用な情報を聞く事ができたこと、ありがたく思っています。特に薬剤師をめぐる最新の動向（病院薬剤師のレジデント制度、医師の処方薬提案etc.）等、じっとしては知り得なかったことを知り得て、このシンポジウムに参加して良かったと思います」などのご感想を伺い、多くの方々に「参加して非常に良かった」とのお言葉をいただきました。

ご参加いただきました皆様、講師の先生方ありがとうございました。改めてお礼申し上げます。



講演の様子



総合討論の様子



狭間 研至 先生

橋田 亨 先生

松村 理司 先生

北澤 京子 先生

2012年度の生涯教育プログラムは下表にあるように、卒後教育講座、研究支援セミナー、公開講座、実務支援セミナーの開催を今後予定しています。

### 【2012年度 開講プログラム一覧】

開催日	時間	講演・講座名	テーマ	単位数	受講料	場 所	定員
4月15日(日)	13:00～17:30	キックオフ・シンポジウム	メインテーマ：次世代の薬剤師に求められる職能とは？	2	1,000円	躬行館3階 T31講義室	360
5月13日(日)	10:00～11:30	卒後教育講座 (第1回)	慢性腎臓病（CKD）と薬物療法 徳島大学大学院ヘルスバイオサイエンス研究部 腎臓内科学 教授 土井 俊夫 先生	3	3日間 受講で 10,000円		
	12:45～14:15		最新の高血圧治療について 財団法人京都工場保健会診療所 所長 武田 和夫 先生				
	14:30～16:00		統合失調症臨床の現在 兵庫医科大学 精神科神経科 教授 湖海 正尋 先生				
6月3日(日)	10:00～11:30	卒後教育講座 (第2回)	緩和ケア ～ストレスケアとコミュニケーションスキル 滋賀医科大学 家庭医療学講座 准教授 田村 祐樹 先生	3	3日間 受講で 10,000円		
	12:45～14:15		てんかんにおける最新の薬物療法 京都大学大学院医学研究科 脳病態生理学講座 臨床神経学（神経内科）准教授 池田 昭夫 先生				
	14:30～16:00		災害への備え：阪神・淡路大震災と東日本大震災から何を学ぶか？ 兵庫県災害医療センター センター長 中山 伸一 先生				
7月1日(日)	10:00～11:30	卒後教育講座 (第3回)	冠動脈疾患の薬物治療とカテーテル治療 京都大学大学院医学研究科 循環器内科学 教授 木村 剛 先生	3	3日間 受講で 10,000円		
	12:45～14:15		消化器外科における薬物療法 滋賀医科大学医学部看護学科臨床看護学講座 教授 遠藤 善裕 先生				
	14:30～16:00		赤十字での薬剤師の災害医療活動～東日本大震災を通じて～ 大阪赤十字病院 薬剤部 薬剤師 谷 大輔 先生				
9月9日(日)	13:30～16:45	研究支援セミナー (第1回)	薬剤師によるエビデンス作り～カルテ調査から臨床薬理学研究まで～ 滋賀医科大学医学部附属病院 薬剤部 教授・部長 寺田 智祐 先生	2	2日間 受講で 5,000円	Q21講義室	50
9月30日(日)	13:30～15:30	研究支援セミナー (第2回)	臨床研究に役立つデータ解析技能（演習） 京都薬科大学 臨床薬学教育研究センター 教授 矢野 義孝 先生	1		K21演習室	
3月10日(日)	13:00～17:00	実務支援セミナー	無菌製剤調製 京都薬科大学 臨床薬学教育研究センター長・教授 高山 明 先生	2	5,000円	臨床薬学教育 研究センター	20

### 【2012年度公開講座】

開催日	時間	講演・講座名	テーマ	単位数	受講料	場 所	定員
11月10日(土)	13:00～16:30	公開講座	講演：京都薬科大学 准教授 小原 幸 先生 ー 健康企画 他	ー	無料	T31講義室	ー

## フォン教授による英語セミナーの開講

基礎科学系・薬学英语分野フォン教授による英語セミナーを次のとおり開講しています。

### 【基礎英会話セミナー(学部生対象)】

①薬局等においてOTC薬品を扱うにあたり、患者の病状、薬物アレルギー等を正確に聞き取る能力、専門用語を交えながら副作用、注意事項等が説明でき自由に意見を述べることのできる能力、②臨床現場での処方箋の読み方、薬物交付時の指示と副作用などの注意事項に関する専門用語を使用した説明ができる能力を養成することを目指しています。

### 【英語セミナー:論文作成・学会発表

(大学院生対象)】

科学論文の作成、投稿および科学文書の適切な書き方を学び、最終的には口頭発表に挑戦します。

第1回目基礎英会話セミナーでは、会話の中での“R”と“L”の聞き分けがなかなかできず、また、“サンパウロ”が“サッポロ”に聞こえて苦笑いを

する場面もありましたが、フォン先生の巧みな話術で、専門用語を聞き取る！自ら発音してみる！という受講者の熱い思いを湧き立たせるものとなりました。

このセミナーは単位認定はありませんが、学年を越えて興味のある方が集まり開講されているセミナーです。後期も引き続き開講されますので、興味のある方はフォン先生（育心館4階・フォン教授室）まで申し出てください。



## 「卒業生からのメッセージ」

### 平成と共に



#### 山下 栄次

1988年 学部卒業

1990年 修士課程修了

(天然物化学教室)

アスタリアル株式会社

リテール事業部

海外営業部長／学術担当部長

国際カロテノイド学会

評議員（事務局長）

昭和から平成になった翌年に修了し社会人になりました。当時の「京薬会誌」に社会人一年目の心境と状況を掲載していただきました。その後、間もなく四半世紀なろうとする今も、やはり京都薬大で学び培った知識と経験が息づいています。特に松野隆男教授（現名誉教授、今年7月米寿）指導の下での天然物化学教室時代に、学者としてだけでなく人間としての人格形成、学問に対する考え方・向き合い方、学会発表・論文作成の基本などを本質的に学びました。夫婦であれば銀婚式にあたる四半世紀の間、教室のメインテーマである“カロテノイド”を一貫して研究、開発、営業してきましたし、今後も恐らく付き合っていくものと思います。何もなかった時代から継続していくことでだんだんと社会貢献できるところまでできています。お茶の間に聖子ちゃ

んが登場している「赤い化粧品」はご存知でしょうか？赤色の本体は、日本では美肌成分として認知度が上昇しているアスタキサンチンです。カロテノイドの一種でエビ・カニの甲羅、サケの筋肉や卵に含まれます。ビタミンEの約1,000倍の抗酸化作用があることがわかり、その商業生産、研究開発、商品開発、そして営業に携わってきました。女優の天海祐希さんも、韓流スターのKARAもイメージキャラクターとしてお茶の間に登場しています。サプリメントも大手健康食品メーカーさんはほとんどアスタキサンチンの商品を販売しています。ブルーベリー最大手メーカーさんのプロモーションは半端じゃないです。阪神タイガースの金本選手が現役最古参で活躍できるのにも一役買っています。数年前にアメリカに拡大し、今や日本を抜く勢いです。生産が追い付かず嬉しい悲鳴です。しかし、一時的なブームに終わらせたくないで、数年前から医療機関向けの事業をはじめました。お陰様で現在は2,000軒以上の医療機関で取り扱っていただけるまでに成長しています。昨年からはそれを海外に拡大すべく日々奮闘しています。通常サプリメントは病気にならないように予防的に利用されますが、本事業をスタートしてから、お医者さまが現代医療では手の施しようがない患者さんに勧めておられます。アドオンの利用され、予防の域を超えそうな勢いです。ご興味のある方は、<http://www.medical-astareal.com/>にアクセス下さい。「継続は力なり」です。学生さんには、授業での知識だけでなく、先輩や先生方に肉薄してその生き様に触れ人生の糧にしてほしいです。

学校法人京都薬科大学2011年度決算は、公認会計士、法人監事の監査を経て、5月18日開催の理事会で審議・承認され、同日の評議員会に報告されました。

当年度に実施した主な施設整備事業では、学生満足度調査による学生の要望に応え、三条通りに面したグラウンドの三角地に、鉄筋コンクリート2階建ての音楽系クラブ練習棟「奏楽館」を建設しました。奏楽館は、1階に3つの練習室、2階に2つの練習室と共同練習室を備えており、これまで別々の場所で練習をしていた管弦楽部、マンドリン部、ユーベルコール部、そして100人を超える大所帯の軽音楽部が共同で利用しています。

また、節電対策の一環として、立体駐輪場の屋上部に出力50kwの太陽光パネルを設置しました。本設備は、2011年12月から発電を開始し、発電電力を構内照明に利用するとともに、年間14.8トンのCO<sub>2</sub>削減に寄与し、地球温暖化防止と人と地球に優しい環境づくりに取り組んでいます。

更に、教育研究総合センターの改修を行い、2階部分では100名収容のK21演習室を200名以上収容できる演習室に拡張し、最大226名のパソコン演習が可能になりました。また、K21演習室の0Aフロアも拡張にあわせて改装しました。パソコン226台、机及び椅子も全て新規購入し、パソコン1台に液晶ディスプレイを上下に2台設置して、教員と学生が双方向で演習を行えるマルチメディア教室になりました。

その他、2012年3月末、グラウンド南端に薬用植物園補助園が完成しました。これにより、補助園での学生実習の実施及び学生が薬草等に身近に接する環境を整えることが出来ました。

また、若手研究者の研究活動を積極的に支援する科学振興基金として11億円、奨学基金に1億円、合わせて12億円を第3号基本金に組入れを行いました。

2011年度決算の概要は次のとおりです。

#### 資金収支計算書総括表（表1）

学生生徒等納付金収入は、入学者数が定員360名に対し373名となったことなどで予算額を上回り4,204百万円になりました。手数料収入は、入学志願者数が前年より270名増（12.3%増）の2,467名となったことを主因に84百万円と予算を上回りました。寄附金収入は、79百万円と予算額を大幅に上回りました。奨学金制度充実のための寄附募集に多数の方からご賛同いただき、特別寄附は予算額を13百万円上回り、研究助成を目的とした一般寄附金も予算額を29百万円上回りました。補助金収入は、経常費補助金を中心に393百万円で予算額を下回りました。特に、経常費補助金は382百万円と予算額を上回りました。

たが、研究装置・研究設備補助金が40百万円予算を下回ったことが大きな要因です。資産運用収入は、119百万円で予算額を上回りました。資産売却収入は、国債の満期償還金を中心でほぼ予算どおりです。事業収入は、予算を1百万円下回り58百万円となりました。

一方、資金支出では、人件費は、退職した教育職員の補充が遅れたこともあり、1,685百万円と予算額を下回りました。教育研究経費は、補助事業の減少及び規模縮小などの影響から、予算額を下回り1,098百万円となりました。管理経費支出も予算を下回り217百万円となりました。施設関係支出では、奏楽館の建設、教育研究総合センターの改修、薬用植物園補助園及び太陽光発電の設置などで、285百万円となりました。設備関係支出では、情報処理教育研究センター演習室のパソコン226台、机・椅子の購入、教育研究用機器備品及び実習用機器などの整備で183百万円となりました。資産運用支出は5,580百万円で、国債の満期償還金及び運用収入、国債の買替え及び新規購入のほか、奨学基金に100百万円、科学振興基金に1,100百万円を積み増しています。

以上により、次年度繰越支払資金は、2,932百万円となりました。

#### 消費収支計算書総括表（表2）

帰属収入は、学生生徒等納付金、寄附金収入等が予算を上回り5,123百万円となりました。また、基本金の組入れは、第1号基本金が南校舎の取り壊し及び耐用年数を経過した高額の教育研究用機器備品の廃棄などから692百万円の取り崩しとなりました。第3号基本金には奨学基金に100百万円、科学振興基金に1,100百万円を組入れ、計1,215百万円の基本金組入れとなりました。この結果、消費収入の部合計は、3,907百万円となりました。

一方、支出においては、人件費及び教育研究経費の減少により、南校舎取り壊し及び機器備品の廃棄に伴う資産処分差額（損）195百万円が発生したものの、消費支出の部合計は、予算を372百万円下回り3,925百万円となりました。この結果、当年度消費収支差額は18百万円の支出超過になりましたが、前年度からの消費収入超過額492百万円及び基本金取り崩し額が692百万円あったため、翌年度に繰越す消費収支差額は1,166百万円の収入超過となっています。

また、当年度の消費収支決算においては、経営判断の指標となる帰属収支差額（帰属収入合計－消費支出合計）が1,197百万円となり、帰属収支差額比率は、23.4%となりました。

## 貸借対照表（表3）

有形固定資産は、奏楽館建設、教育研究総合センター改修及び薬用植物園補助園整備などに伴う増から、南校舎取り壊し及び教育研究用機器備品の廃棄などに伴う減を差引きした結果、前年比515百万円減の13,717百万円になりました。その他の固定資産は、第3号基本金引当資産に1,209百万円の組入れを行い、前年比1,322百万円増の12,375百万円となりました。また、流動資産は、現金預金が376百万円増加し、前年比458百万円増の3,116百万円となりました。その結果、資産の部合計は29,209百万円となり、1,266百万円の増加となっています。

負債のうち、固定負債937百万円は全額退職給与引当金です。流動負債854百万円は、未払金、前受金、預り金を計上しています。この結果、負債の部合計は1,791百万円となっています。

基本金の部は、第3号基本金には奨学金制度及び科学研究振興基金制度の充実を図るため1,209百万円を組入れています。その結果、基本金の部合計は26,250百万円となり、前年比523百万円の増加となっています。

消費収支差額の部は、翌年度繰越収入超過額が1,166百万円となりました。

表1 資金収支計算書（総括表）

2011年4月1日～2012年3月31日（単位：千円）

収入の部				支出の部			
科 目	予 算	決 算	差 異	科 目	予 算	決 算	差 異
学生生徒等納付金収入	4,147,700	4,204,014	△ 56,314	人件費支出	1,889,000	1,685,942	203,057
手数料収入	77,300	84,821	△ 7,521	教育研究経費支出	1,233,100	1,098,713	134,386
寄付金収入	36,000	79,025	△ 43,025	管理経費支出	233,400	217,956	15,443
補助金収入	404,100	393,478	10,621	施設関係支出	308,000	285,582	22,417
資産運用収入	112,900	119,979	△ 7,079	設備関係支出	260,800	183,381	77,418
資産売却収入	1,498,000	1,498,513	△ 513	資産運用支出	5,594,900	5,580,900	13,999
事業収入	60,000	58,611	1,388	その他の支出	594,000	626,204	△ 32,204
雑収入	145,000	149,587	△ 4,587	予備費	20,000		20,000
前受金収入	602,500	610,476	△ 7,976	資金支出調整勘定	△ 249,000	△ 273,715	24,715
その他の収入	3,395,100	3,327,716	67,383	次年度繰越支払資金	2,288,300	2,932,205	△ 643,905
資金収入調整勘定	△ 772,600	△ 744,743	△ 27,856				
前年度繰越支払資金	2,466,500	2,555,689	△ 89,189				
収入の部合計	12,172,500	12,337,172	△ 164,672	支出の部合計	12,172,500	12,337,172	△ 164,672

表2 消費収支計算書（総括表）

2011年4月1日～2012年3月31日（単位：千円）

収入の部				支出の部			
科 目	予 算	決 算	差 異	科 目	予 算	決 算	差 異
学生生徒等納付金	4,147,700	4,204,014	△ 56,314	人件費	1,838,400	1,643,183	195,216
手数料	77,300	84,821	△ 7,521	教育研究経費	1,911,100	1,777,368	133,731
寄付金	46,000	112,558	△ 66,558	管理経費	328,400	309,548	18,851
補助金	404,100	393,478	10,621	資産処分差額 (予備費)	200,000	195,107	4,892
資産運用収入	112,900	119,979	△ 7,079		20,000		20,000
事業収入	60,000	58,611	1,388				
雑収入	145,000	149,587	△ 4,587	消費支出の部合計	4,297,900	3,925,207	372,692
				当年度消費収支差額	△ 525,100	△ 18,150	
帰属収入合計	4,993,000	5,123,051	△ 130,051	前年度繰越消費収支差額	434,000	492,309	
基本金組入額合計	△ 1,220,200	△ 1,215,995	△ 4,204	基本金取崩額	114,500	692,378	
消費収入の部合計	3,772,800	3,907,056	△ 134,256	翌年度繰越消費収支差額	23,400	1,166,538	

表3 貸借対照表（総括表）

2012年3月31日現在（単位：千円）

資産の部				負債の部			
科 目	本年度末	前年度末	増 減	科 目	本年度末	前年度末	増 減
固定資産	26,092,255	25,285,008	807,246	固定負債	937,116	979,876	△ 42,759
有形固定資産	13,717,246	14,232,378	△ 515,131	流動負債	854,492	743,345	111,146
その他の固定資産	12,375,008	11,052,630	1,322,378	負債の部合計	1,791,609	1,723,221	68,387
流動資産	3,116,828	2,657,842	458,985	基本金の部			
現金預金	2,932,205	2,555,689	376,516	科 目	本年度末	前年度末	増 減
その他の流動資産	184,622	102,152	82,469	第1号基本金	20,810,981	21,503,360	△ 692,378
				第2号基本金	1,331,007	1,330,851	155
				第3号基本金	3,874,946	2,665,107	1,209,839
				第4号基本金	234,000	228,000	6,000
				基本金の部合計	26,250,935	25,727,319	523,616
				消費収支差額の部			
				科 目	本年度末	前年度末	増 減
				翌年度繰越消費収入 超過額	1,166,538	492,309	674,228
				翌年度繰越消費支出 超過額			
				消費収支差額の部合計	1,166,538	492,309	674,228
資産の部合計	29,209,083	27,942,851	1,266,232	負債の部、基本金の部及 び消費収支差額の部合計	29,209,083	27,942,851	1,266,232

(注)減価償却の累計額の合計額 7,055,382千円

表1、表2、表3とも単位未満切捨て

# 2011年度授業評価集計結果の報告

授業評価検討委員会

本学では、授業の改善を目的とした学生による授業評価を Semester 毎に実施しています。授業評価の方法として、2002年度から「授業アンケート」を行い、2009年度からは、全学生を対象に実施しています。評価対象となる教員は専任教員および非常勤講師です。

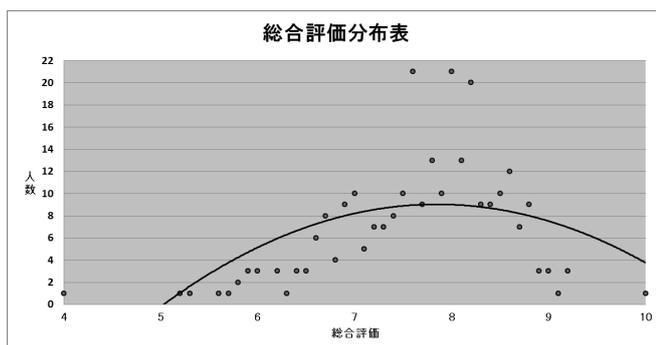
本アンケートの集計結果を受け、教員は授業改善計画である「リフレクション・ペーパー」を作成しています。全教員のリフレクション・ペーパーは、学生の意見に対するフィードバックとするため冊子にまとめて公開し、図書館に収蔵します。このことにより、今後の授業改善が積極的に進み、教員および学生にとって有意義な授業が実施されると期待されます。

2011年度授業評価の集計結果と解析結果の概要を以下のとおり報告します。

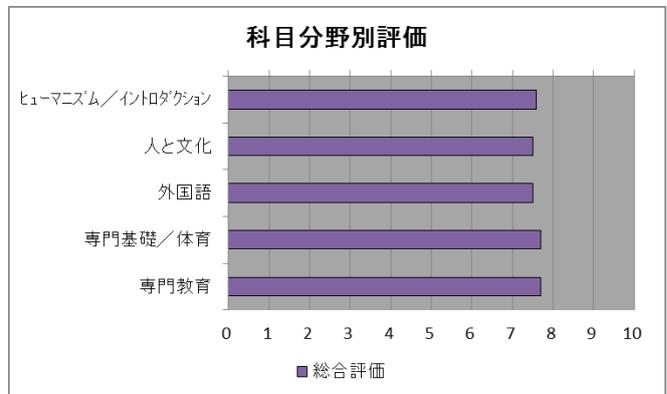
◆設問項目別授業評価の全体平均は下表のとおりでした。

設 問	2011年度 評 価 (5段階)
Q01.話し方が明瞭で聞き取りやすかった。	4.1
Q02.説明がていねいでわかりやすかった。	4.0
Q03.板書、液晶プロジェクターなどが適切でわかりやすかった。	3.9
Q04.教科書・参考書やプリントなどの教材が適切に使用されていた。	4.1
Q05.授業はシラバスに沿って進められた。	4.1
Q06.重要事項を強調して説明していた。	4.1
Q07.よく準備され、熱意が感じられた。	4.1
Q08.私語や態度の悪い学生に注意するなど、静かに授業が行われるように工夫されていた。	4.0
Q09.授業に対する関心を高める工夫がなされていた。	3.9
Q10.この授業に興味を持つようになった。	3.9
Q11.教員は学生の質問や意見に対して適切に対応した。	4.0
項 目 平 均	4.0

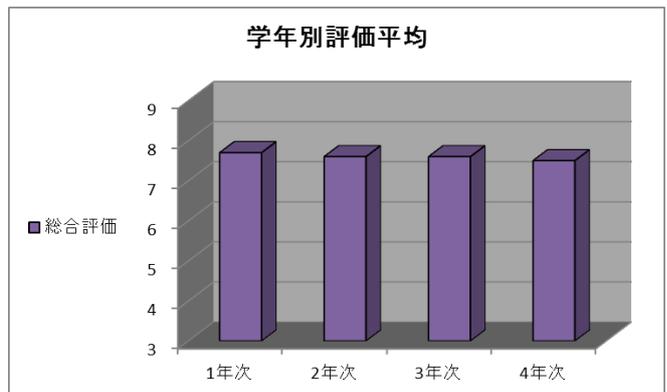
◆教員個人別評価の分布は、平均値7.70でした。



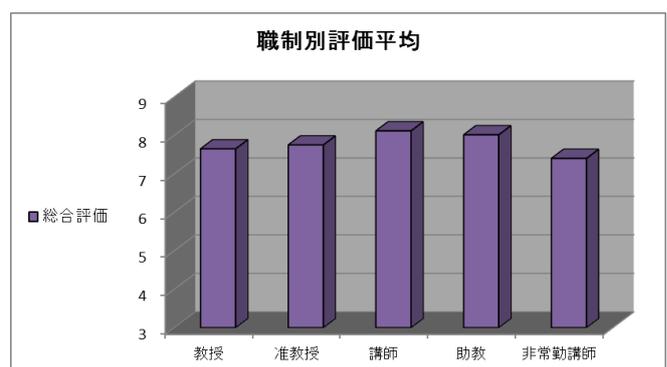
◆総合評価と授業科目分野区分との関係は、「人と文化」と「外国語」が他に比べやや低い結果でした。



◆学年別平均は、各学年で特に大きな差は見られない結果でした。



◆次に職制との関係では、講師の評価が他よりやや高く評価される結果でした。



最後に、授業アンケートに協力してくれました学生諸君に感謝いたします。また、評価対象となった教員におかれましては、アンケート結果を参考にして、更なる授業改善につなげていただければ幸いです。

2012年度 試験関係日程
---------------

教務課

## 《試験日程》

2012年度の試験日程は【表1】のとおりです。

各学年とも進級・卒業要件をよく確認するようにしてください。また最近、試験日時を間違えるケースが多々見受けられます。各自注意して試験に臨んでください。

再試験の受験手続は、指定の手続期間に必ず行ってください。手続時に発行する再試験受験許可書・領収書は、再試験を受験する際に必要です。紛失しないように大切に保管してください。万が一紛失した場合は、教務課で再発行を受けてください。

選択科目（1年次・人と文化、2年次・選択外国語）の不合格科目は、再試験手続をしなかった場合には放棄とみなし、翌年度の前年次・前々年次科目再試験を受験することができなくなります。履修登録した年度中は、平均点に算入されることとなります。

シラバス「学修の手引き」の項にも、試験制度の詳細や受験にあたっての心得が掲載されていますので、よく読んでおいてください。

【表1】

年	試験	試験期間	合格発表等	手続等
2012	4年次生 前期試験	7月17日(火)～ 7月24日(火)	8月24日(金)に発表予定 (Web公開)	—
	1～3、6年次生 前期試験	7月23日(月)～ 7月31日(火)		
	2～4年次生 前年次・前々年次科目 再試験	9月3日(月)～ 9月6日(木)	成績通知書を配付	4月19日(木)・20日(金)
	1～4、6年次生 前期科目再試験	9月7日(金)～ 9月13日(木)	成績通知書を配付	前期試験の再試験受験 手続期間: 8/27(月)・28(火)
	4年次生 薬学共用試験 OSCE本試験(予定)	12月15日(土)・16日(日) (予定)	発表・手続方法については 掲示等でお知らせします	
2013	6年次生 薬学特別演習本試験	1月8日(火)・9日(水)	1月21日(月)に発表予定 (Web公開)	—
	4年次生 後期試験	1月10日(木)～ 1月17日(木)	1月28日(月)に発表予定 (Web公開)	—
	1～3年次生 後期試験	1月21日(月)～ 1月29日(火)	2月12日(火)に発表予定 (Web公開)	—
	4年次生 薬学共用試験 CBT本試験(予定)	1月23日(水)・24日(木) (予定) ※いずれか1日を受験	発表・手続方法については 掲示等でお知らせします	
	6年次生 薬学特別演習再試験	2月4日(月)・5日(火)	卒業査定会終了後に 成績通知書を配付	薬学特別演習本試験の再試験受験 手続期間: 1/22(火)・23(水)
	4年次生 後期科目再試験	2月4日(月)～2月7日(木)	2月15日(金)に発表予定 (Web公開)	後期試験の再試験受験 手続期間: 1/29(火)・30(水)
	1～3年次生 後期科目再試験	2月22日(金)～ 3月1日(金)	進級査定会終了後に 成績通知書を配付	後期試験の再試験受験 手続期間: 2/13(水)・14(木)
	4年次生 前・後期科目再試験Ⅱ			【前期科目】 再試験Ⅱ受験 手続期間: 10/24(水)・25(木)  【後期科目】 再試験Ⅱ受験 手続期間: 2/18(月)・19(火)

【表1つづき】

年	試験	試験期間	合格発表等	手続等
2013	4年次生 薬学共用試験 CBT追・再試験(予定)	3月4日(月) (予定)	進級査定会終了後に 成績通知書を配付	手続方法については 掲示等でお知らせします
	4年次生 薬学共用試験 OSCE追・再試験(予定)	3月7日(木) (予定)		

《成績通知・合格発表》

【表2】の日程で成績通知書を配付します。1～2年次生は学生相談員から3～6年次生は分野主任から受け取ってください。

なお、成績通知書は、必ず配付期間中に受け取るようにしてください。

【表2】

区 分	年 次	配付日程	保証人(父母)への送付
前期終了時の 成績通知書	全学年	10月4日(木)～ 10月11日(木)	10月下旬
後期終了時の 成績通知書	6年次	2月19日(火)～ (卒業査定会終了後配付します)	—
	1～5年次	3月21日(木)～ (進級査定会終了後配付します)	4月中旬～下旬

## クラブだより

### 準硬式野球部

私たち準硬式野球部は、新たに7名の部員と4名のマネージャーの計11名の新1年次生を迎え、6月に行われる新人戦、8月に行われる京滋六大学秋季リーグ戦や薬連に向けて日々練習に取り組んでいます。

#### <昨年度の活動実績>

京滋六大学 準硬式野球連盟春季リーグ 2勝10敗  
京滋六大学 準硬式野球連盟秋季リーグ 2勝8敗2分  
関西薬学生連盟準硬式野球大会 準優勝

#### <今後の活動予定>

3月 京滋六大学 準硬式野球連盟春季リーグ  
6月 京滋六大学 準硬式野球連盟新人戦  
8月 関西薬学生連盟準硬式野球大会  
8月 京滋六大学 準硬式野球連盟秋季リーグ

2012年度KPU<sup>NEWS</sup>編集委員は下記の皆さんにご協力をお願いすることとなりました。

#### <委員長>

秋澤 雅男 (教授)

#### <委員(教育職員)>

抱 喜久雄 (教授)

北出 達也 (教授)

高山 明 (教授)

藤原 洋一 (准教授)

長谷井友尋 (助教)

鳥羽 裕恵 (助教)

#### <委員(事務職員)>

山下 豊彦 (庶務課長兼

企画・広報課長)

井本富美代 (進路支援課課長代理)

#### <委員(学生)>

石河 里紗 (2年次)

木村 朱李 (2年次)

豊川 志穂 (2年次)

## 2013年度 学部入学試験概要

2013年度の学部入学試験は、下記のとおり実施します。

受験生や高校生向「大学案内」「DATA BOOK」の資料を入試課に用意しておりますので、お近くの受験生、高校生の方々にご案内下さい。

### 1. 入学定員・募集人員・入学試験日程

学 部	学 科	入 学 定 員
薬学部	薬学科	360名

	特 別 選 抜 推 薦 入 学		一 般 選 抜		
	指定校制	一般公募制	一般A方式 (センター前期)	一般B方式 (一般入試)	一般C方式 (センター後期)
募集人員	50名	80名	45名	180名	5名
出願期間	2012年11月 1日(木) ～ 2012年11月 7日(水) <b>必着</b>		2013年1月 7日(月) ～ 2013年1月18日(金) 当日消印有効	2013年1月 7日(月) ～ 2013年1月25日(金) 当日消印有効	2013年2月25日(月) ～ 2013年3月 7日(木) 当日消印有効
試 験 日	2012年11月12日(月)	2012年11月17日(土)	2013年1月19日(土) 2013年1月20日(日) <b>個別試験はなし</b>	2013年2月3日(日)	2013年1月19日(土) 2013年1月20日(日) <b>個別試験はなし</b>
合格発表日	2012年11月27日(火)		2013年2月14日(木)	2013年2月13日(水)	2013年3月15日(金)

### 2. 検査項目等

推薦入学(指定校制)
面接および調査書を基に総合的に判定します。

推薦入学(一般公募制)	配点
適性検査	
Ⅰ：英語(英語Ⅰ、英語Ⅱ、リーディング)	100
Ⅱ：化学(化学Ⅰ)	100
面接	40
調査書(国語と数学の評定平均値の合計×2)	20
ただし、一定基準に達しない科目があれば、不合格になることがあります。	

区分	一般A方式(センター前期)	配点
数 学	数学Ⅰ・数学A、数学Ⅱ・数学B	200
外国語	英語(リスニングの成績は利用しない)	200
国 語	国語(近代以降の文章のみ利用する)	100
理 科	化学Ⅰ(必須)、 物理Ⅰ、生物Ⅰから1科目(選択)	200

区分	一般B方式(一般入試)	配点
数 学	数学Ⅰ、数学Ⅱ、数学A、数学B(数列、ベクトル)	200
外国語	英語(英語Ⅰ、英語Ⅱ、リーディング、ライティング)	200
理 科	化学Ⅰ、化学Ⅱ(「生活と物質」あるいは「生命と物質」を出題する場合はともに出題し、どちらかを選択させる)	200

区分	一般C方式(センター後期)	配点
数 学	数学Ⅰ・数学A、数学Ⅱ・数学B	200
外国語	英語(リスニングの成績は利用しない)	200
理 科	化学Ⅰ(100点を200点に換算する)	200

# 2013年度大学院薬科学専攻博士前期課程入学選考の概要

2012年4月

		一 般 入 試	社 会 人 入 試	備 考
募集人員	5名			*1: 文部科学省の大学院入学基準を満たした専修学校専門課程の修了者又は、高等専門学校の専攻科を修了した者について、薬科学研究に必要な科目を履修した者を含む
	若干名		若干名	
募集分野	薬科学専攻 12分野(*2と同じ)	薬科学専攻 12分野(*2と同じ)		
出願資格	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 本学卒業生</li> <li>・ 他大学卒業生(他大学卒業見込生を含む)</li> <li>・ 本学が大学を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者*1</li> <li>・ 外国において学校教育における16年の課程を修了した者</li> </ul>	大学卒業後、社会人として1年以上の社会的経験を有する者(出願時において)		
出願書類 <small>(通常の書類に追加して出願時に提出する書類)</small>	志願理由書 成績証明書(本学卒業生を除く)	志願理由書 成績証明書(本学卒業生を除く) 実務実績書		
関係日程	出願期間	2012年7月13日(金) ~ 2012年7月20日(金)		
	試 験	2012年8月24日(金)		
	合格発表	2012年8月31日(金) 午後予定		
	入学手続期限	2012年9月13日(木) 入金納付期限 2013年3月22日(金) 授業料前期分納付期限, 入学手続書類提出期限		
試 験 科 目	外国語(英語)	4問題から2問題を選択解答 40点(20点×2)	—————	
	薬学専門	I ~ V系*2の12問題から2問題を選択解答  40点(20点×2問題)	—————	*2: 系  I系 創薬科学系 薬化学分野、薬品製造学分野、 薬品化学分野、生薬学分野  II系 分析薬科学系 薬品分析学分野、代謝分析学分野、 薬品物理化学分野  III系 生命薬科学系 公衆衛生学分野、細胞生物学分野、 生化学分野  IV系 病態薬科学系 薬理学分野  V系 医療薬科学系 薬剤学分野
	小論文他	—————	小論文(一般)小論文(専門)の2課題 成績証明書	
面接試問	志願理由書を参考に試問	志願理由書・実務実績書を参考に試問		【学識、説明能力、自覚・意欲】

## 第2回KPUシンポジウム報告書

2012年5月1日(火)、京都薬科大学・躬行館T31講義室において第2回KPUシンポジウムを開催いたしました。特別講演として金沢市立病院・薬剤室長の河原 昌美先生をお招きして、「臨床現場の不思議からのメッセージ」という演題でご講演頂きました。また、一般講演として岩崎 宏樹助教、吉川 豊講師、飯居 宏美助教、辻本 雅之講師および勝見 英正助教の5名の学内若手教員による最新の研究成果について発表して頂きました。会場であるT31講義室の収容人数は402名ですが、開始時間には満席となり多くの学生や教員が立ち見となるほど大勢の方にご参加頂きました。参加者総数は、実に768人と前回の2倍以上でありました。内訳としては、1～3年次生が122

名、4～6年次生が572名、大学院博士前期課程学生が4名、博士後期課程学生が13名、研究生が1名、ポストドクターが1名、外部参加者1名および教職員が54名であり、予想を超える大勢の方にご参加いただきました。また、シンポジウム終了後、向かいのT32講義室で開催した交流会では、特別講演演者の河原先生や一般講演演者の先生方を囲んで質問をしている多くの学部学生で賑わっておりました。交流会は18時過ぎまで続きました。今回も多くの先生方から多大なご協力を頂きましたことを深謝致しますとともに、今後とも引き続きご協力頂きますようお願い申し上げます。

KPUシンポジウム実行委員会一同

### 1. シンポジウム概要

日時：2012年5月1日(火)13：30～16：35  
場所：京都薬科大学・躬行館 T31講義室

#### 【プログラム】

開会の挨拶	乾 賢一 学長
特別講演 (1) 13:30 - 14:20 臨床現場の不思議からのメッセージ	座長：後藤 直正 副学長 河原 昌美 先生 (金沢市立病院)
一般講演 (1) 14:30 - 14:55 新規反応に魅せられて～ヨウ化サリウムを用いたラジカル反応の開発～ 岩崎 宏樹 助教 (京都薬科大学・薬品製造学分野)	座長：赤路 健一 教授
一般講演 (2) 14:55 - 15:20 生活習慣病治療を目指した新規金属錯体の開発研究 吉川 豊 講師 (京都薬科大学・代謝分析学分野)	座長：加藤 伸一 准教授
一般講演 (3) 15:20 - 15:45 アポトーシスではない新規の細胞死機構を利用した抗癌剤の開発 飯居 宏美 助教 (京都薬科大学・臨床腫瘍学分野)	座長：奈邊 健 准教授
一般講演 (4) 15:45 - 16:10 末期腎不全患者の肝代謝 ～代謝が早くなる？ 遅くなる？～ 辻本 雅之 講師 (京都薬科大学・臨床薬学分野)	座長：安井 裕之 教授
一般講演 (5) 16:10 - 16:35 骨疾患を対象とした新規DDS製剤の創製 勝見 英正 助教 (京都薬科大学・薬剤学分野)	座長：長澤 一樹 教授
閉会の挨拶	小暮 健太郎 教授



乾学長による開会の辞



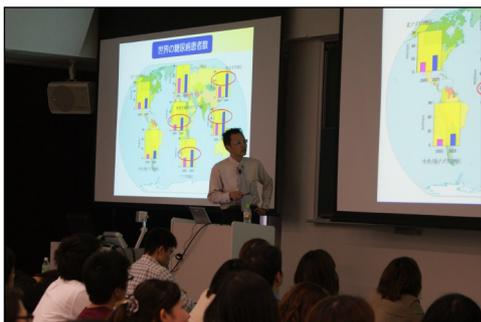
河原先生による特別講演①



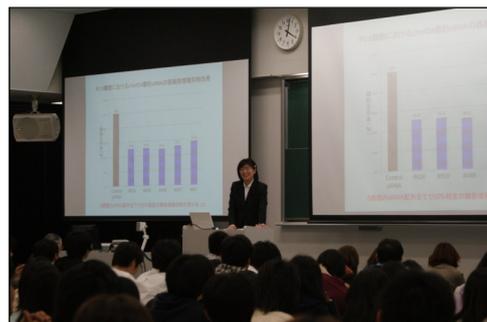
河原先生による特別講演②



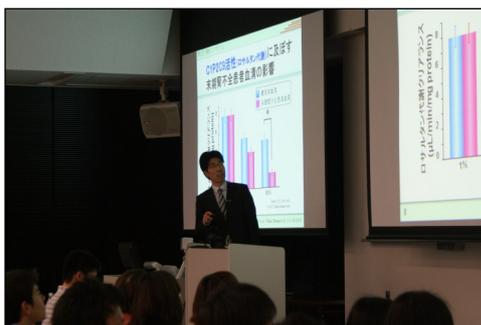
岩崎助教による一般講演



吉川講師による一般講演



飯居助教による一般講演



辻本講師による一般講演



勝見助教による一般講演



小暮教授による閉会の辞



交流会の様子

## 平成24年度科学研究費助成事業 採択状況

学長 乾 賢一

研究資金には、毎年大学から支給される研究費のほか、国から助成される科学研究費（私学助成金を含む）、財団から助成される研究費、企業からの寄附金や受託研究費などがあります。国からの研究費は文部科学省をはじめ厚生労働省、経済産業省などから助成されていますが、いずれも厳しい審査の結果、採択されます。最も金額の大きいのが文部科学省の「科学研究費助成事業」（略して「科研費」と呼んでいます）です。科研費の募集枠は金額によって分類されていて、個人で申請するものや複数の研究者で申請するものがあります。

下表には代表者のみ記載されていて、分担者として他の大学の先生と共同研究をされている場合は含まれていません。また、1人の研究者があまり多くの枠に申請できないように制限も設けられています。

今年度は新規で42件申請して11件が採択されました[新規採択率26.19%]。

前年度からの継続分とあわせると、合計採択件数は32件、交付予定総額は61,100千円となっています（他機関への転出者は除く。他機関からの転入者は含む）。

なお、特別研究員奨励費は下表には記載していません。研究活動スタート支援は現在申請中です。

## 平成24年度科学研究費助成事業 配当一覧表

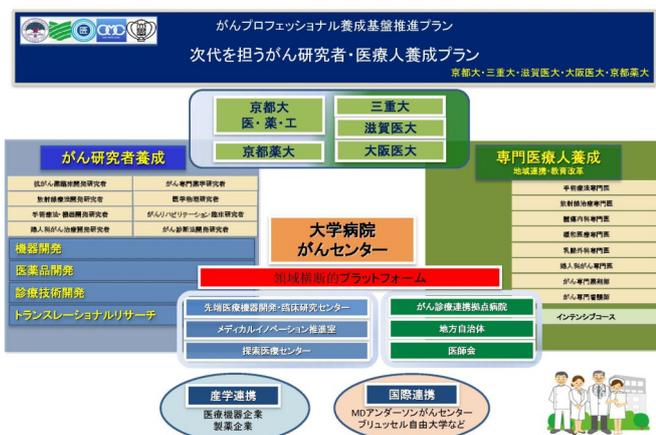
研究種目	研究代表者	分野名	研究課題	交付予定額 (千円)	新規・継続等
新学術領域研究 (研究領域提案型) (継続の研究領域)	小暮 健太郎	薬品物理化学	細胞の微弱電流環境下における物質取り込み変化の機構解明と革新的薬物送達への展開	3,770	新規
基盤研究(B)	高田 寛治	薬物動態学	マイクロニードル経皮ワクチン	4,680	継続
"	小暮 健太郎	薬品物理化学	腫瘍組織内奥へ積極侵入可能なワームライクDDSの創製	3,900	"
基盤研究(C)	松田 久司	生薬学	アーユルヴェーダ生薬からPPARの発現制御を指標とした生活習慣病改善物質の探索	1,300	継続
"	山下 正行	薬品製造学	小員環の歪みエネルギーの解消を基盤とする新規合成反応の開発と天然物合成への展開	1,430	"
"	小関 稔	学生実習支援センター	リサイクル型不斉アミノ化剤による多連続負斉炭素構築法の開発研究	910	"
"	矢野 義孝	臨床薬学教育研究センター	経口投与製剤の臨床薬物動態予測のためのファーマコメトリクス手法の構築	780	"
"	坂根 稔康	薬剤学	亜鉛の吸収と体内動態: 吸収型輸送担体ZIPと排泄型輸送担体ZnTとの関係	910	"
"	山本 昌	薬剤学	生体分解性マイクロニードルを用いたインクレチンの次世代型経皮吸収製剤の開発	390	"
"	細井 信造	薬学教育研究センター	ビナフチル型CDプローブを利用した実用的絶対配置決定法の開発とその天然物への応用	1,690	"
"	奈邊 健	薬理学	好中球をターゲットとした重症喘息と慢性閉塞性肺疾患(COPD)の制御に関する研究	1,560	"
"	山岸 伸行	生化学	ポリグルタミン病における小胞体分子シャペロン発現調節機構の解析と治療への応用	1,170	"
"	後藤 直正	微生物・感染制御学	緑膿菌の腸管経由トランスロケーションの統合的解析	1,950	"
"	安井 裕之	代謝分析学	GPR39作動性のPdx-1発現により膵β細胞を保護する抗糖尿病亜鉛医薬品の開発	1,950	"
"	芦原 英司	病態生理学	"骨髄腫幹細胞ニッチ"の解析と治療標的分子の同定	1,950	継続(転入)
"	上西 潤一	薬化学	Pd触媒を用いる連続キラルTHF環の立体制御とその展開;ゴニオシン類の不斉全合成	2,210	新規
"	藤室 雅弘	細胞生物学	細胞性およびウイルス性蛋白質の細胞内分解・成熟機構	1,950	"
"	長澤 一樹	衛生化学	P2X7受容体のスプライスパリアントによる活性制御の変動と精神神経疾患との関連	1,950	"
"	高田 和幸	病態生理学	アルツハイマー病治療への臨床応用を目指した骨髄由来ミクログリア様細胞移植の解析	1,950	"

研究種目	研究代表者	分野名	研究課題	交付予定額(千円)	新規・継続等
基盤研究(C)	伊藤 由佳子	薬物動態学	個別化医療のためのフツ化ピリミジン系抗癌剤の定量的治療効果予測システムの構築	1,560	新規
"	勝見 英正	薬剤学	活性酸素消去能に優れる白金ナノ粒子のDDS開発と転移性肝癌治療への応用	3,250	"
"	小原 幸	臨床薬理学	不全心筋におけるミトコンドリア品質管理因子の制御機構解明及び治療への応用	2,470	"
"	奥田 潤	微生物・感染制御学	比較ゲノム解析を基盤にした緑膿菌の内因性血液感染メカニズムの解析	1,690	新規(転出)
挑戦的萌芽研究	小暮 健太郎	薬品物理化学	痛くないワクチンによる抗がん治療	1,950	新規
若手研究(B)	西田 健太郎	衛生化学	味細胞におけるアデノシンの生理的役割の解明	1,040	継続
"	皆川 周	微生物・感染制御学	緑膿菌の黄色ブドウ球菌増殖抑制機構による菌交代現象の解析	1,430	"
"	中村 誠宏	生薬学	メディシナルフラワーを素材とした抗老化関連物質の探索	1,300	"
"	本橋 秀之	臨床薬学教育研究センター	成長に伴う腎薬物トランスポーターの変動機構解明と薬物動態への影響	2,080	"
"	辻本 雅之	臨床薬学	腎不全患者で頻発する薬剤性横紋筋融解症の発症機構の解明と薬物適正使用法の確立	1,430	"
"	鳥羽 裕恵	臨床薬理学	心腎・脳腎連関を考慮した慢性腎臓病治療におけるエリスロポイエチンの有用性の検討	1,430	"
"	土谷 博之	薬品物理化学	レチノイン酸による肝臓インスリン感受性増強機構の解明と創薬開発への応用	2,470	"
"	小島 直人	薬品製造学	ハイブリッド型アセトゲンン類の実用化を目指した構造活性相関研究	2,340	継続(転入)
"	長谷井 友尋	公衆衛生学	メイラード反応物ABAQ及びその関連物質の糖尿病状態での生成及びその生態影響	1,950	新規

## 採択

### 平成24年度大学改革推進等補助金(文部科学省) 「がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン」

がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン(文部科学省)に京都大学、三重大学、滋賀医科大学、大阪医科大学、本学の5大学連携事業である「次代を担うがん研究者・医療人養成プラン」が採択されました(プランの概要は以下のとおり)。



本プランにおいて、本学は開設初年度となる大学院薬学研究科薬学専攻博士課程(6年制薬学部を基礎とする4年制の博士課程)に教育コース:「がん薬物

療法を専門とする薬学研究者養成コース」を設置しました。本コースでは、薬学・薬物療法全般についての広い知識を身に付けるとともに、がん薬物療法についての深い知識と臨床経験を修得することにより、先端がん研究の発展に貢献できる薬学研究者の養成を目的としています。今年度は3名の学生が在籍しており、主に大学病院との連携プログラムに参加しながら、日々、学業および研究活動に励んでいます(本学教育コースの概要は以下のとおり)。

### がん薬物療法を専門とする薬学研究者養成コース (京都薬科大学)

コーディネーター:吉貴達寛教授(臨床腫瘍学分野)

入学資格者

6年制薬学部卒業生

大学院  
カリキュラム



到達目標

学位:博士(薬学)  
基礎研究と臨床研究の橋渡しを担う薬学研究者

本プランに関する教育活動内容等については、本紙面でも掲載していく予定です。また、本学ホームページにも情報を掲載しております。

## 私立大学戦略的研究基盤形成支援事業

平成24年度の私立大学戦略的研究基盤形成支援事業（文部科学省による補助事業）に、本学から申請された「バイオメタルと生体反応の連関解明に基づいた疾患治療ファルマコメタロミクスの確立」が、このたび5年間の研究プロジェクトとして採択されました。本学では平成20年度に、この支援事業に2件の研究プロジェクト「生物分子システムに基づく創薬科学フロンティア研究」および「先端搭載微小ミサイルカプセルMMCの開発と応用」が採択されており、単科の薬系大学では他に類を見ない合計で3件のプロジェクトが実施されることになりました。

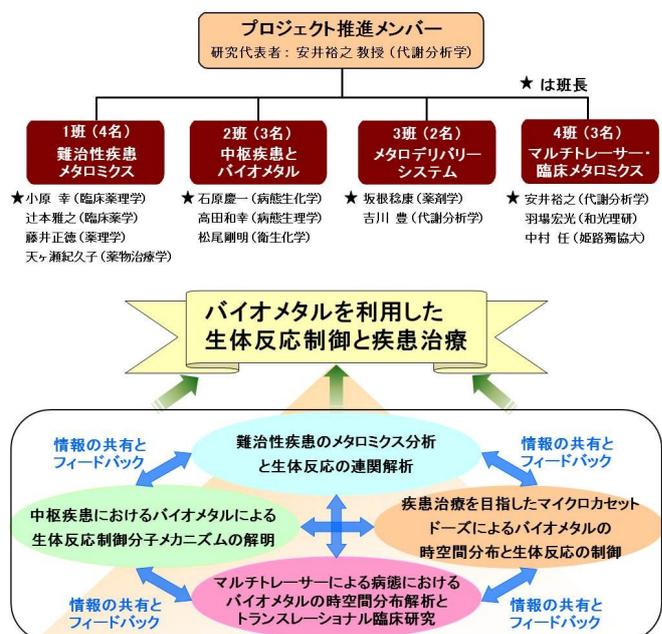
本事業は、わが国の科学技術の進展に寄与することを大きな目的として、私立大学が各々の経営戦略に沿って実施する研究基盤の形成を支援するため、各大学が提案する研究プロジェクトに対して文部科学省が重点的かつ総合的に補助を行う事業です。21世紀COE事業が終了した現在、私立大学に対して文部科学省が支援する唯一の補助事業となっています。日本全国の私立大学が最先端の研究や地域に根差した研究などの観点から研究プロジェクトを計画・申請し、提出された申請案を文部科学省が審査の上で厳正に選定を行い、採択を決定した研究拠点に対して、当該プロジェクトを遂行するための研究施設・設備整備費や研究費が一体的に補助される仕組みになっています。平成24年度は、全国の私立大学から応募された中から62件の申請案が採択されましたが、その中で薬学関連の研究プロジェクトは本学を合わせて全3件（本学の他は東北薬科大学と神戸薬科大学）と非常に狭き門でした。

本プロジェクトのメンバーは若手教員を中心とした12名で構成されており、研究体制として基礎から臨床にわたる4つの研究班を設けました（組織図を参照）。安井教授を研究代表者とするこれら4班が、互いに綿密な協力関係を築きながら、各々が連携して研究を推進することで、5年間の研究期間の後には本学に1つの研究拠点を形成できるよう取り組みます。

さて、本研究プロジェクトの目的について簡単に記します。生体必須微量元素（バイオメタルとも呼ぶ）には、鉄、亜鉛、銅、マンガン、セレン、クロム、コバルト、モリブデンなどがあることは、薬学生にとって今では教科書レベルの話だと思います。21世紀に入ってからは、鉄、亜鉛、銅の生体内輸送に関する分子生物学的研究が世界中で大きく発展しました。しかし、バイオメタルの局所変動（全身レベルではなく臓器レベルや細胞レベルを意味する）が起きた時に、人体に及ぼす多くの生体反応（特に、投与された医薬品に対する応答反応、すなわち薬理反応）が定性的・定量的にどのような影響を受けるのか、現在でも全貌は明らかとはなっていません。バイオメタルと薬理反応や薬の効き方が関係する

現象は観測されていても、その分子メカニズムは不明なことが多いのです。したがって、これらのメカニズムを解明することができれば、その知見に基づいてバイオメタルの適正量を特定の臓器と時間においてコントロールすることにより、生体反応をより良い方向に制御して医薬品による疾患治療を促進できる方法論を提案できるのではと考えました。2004年にメタロミクスの概念（バイオメタルによる生体反応への影響を網羅的に解析しようとする概念および研究手法）は既に提唱されていますが、今まで、健常や病態のある瞬間におけるバイオメタルの生体分布を観測することが研究対象の主流となっています。本プロジェクトでは、これまでのメタロミクスの概念をさらに発展させるため、疾患が発症する前後や治癒する前後でバイオメタルがどのように変動するのかについて、また、医薬品の投与により刺激を受けたバイオメタルがどのように応答するのかについて、詳しく調べることを計画しています。すなわち、医薬品による疾患治療の前後で、バイオメタルの時間的かつ空間的な挙動の変化を細かく観測できれば、投与された薬による生体反応がバイオメタルの局所変動でどのように促進され、治療効果がどのような好影響を受けるのか初めて明らかになるでしょう。

本学が取り組む事業の1つとして、本プロジェクトでは上記の4つの研究班を設け、バイオメタルによる生体反応機構の解明と制御による疾患治療法「ファルマコメタロミクス」の確立を目指します。本学の全職員、大学院生、学部学生、卒業生ならびに本学に関係する皆様方の温かいご支援、ご指導を何卒よろしくお願い申し上げます。

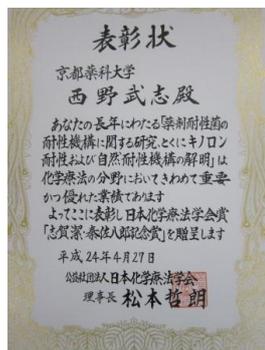


## 受賞

### 西野武志名誉教授「志賀潔・秦佐八郎記念賞」 (日本化学療法学会)を受賞

志賀潔・秦 佐八郎記念賞（日本化学療法学会学会賞）は、化学療法の分野で大きな業績を残された北里柴三郎門下の志賀 潔（赤痢菌の発見）と秦 佐八郎（サルファ剤の発明）の名を後世に永く伝え、化学療法の発展を願って1990年に設けられたものであり、感染症に対する化学療法の研究の進歩に寄与した優秀なる研究業績を発表した日本化学療法学会会員に授与されるものであります。

本学名誉教授（前学長）西野武志先生は、電子顕微鏡による形態学的研究を基盤に、抗菌薬の作用メカニズムおよび耐性機構研究を展開され、抗菌薬作用による黄色ブドウ球菌を始めとしたグラム陽性菌における細胞壁構築メカニズム、キノロン系抗菌薬の作用特性および緑膿菌を始めとしたグラム陰性菌における耐性メカニズムの相互作用解明のみならず、現在臨床使用されている多数の抗菌薬の開発にも大きな貢献を残されました。とくに、本邦のみならず、欧米各国での感染症治療に使用されているペネム系抗菌薬ファロペネムにおいては、その探索・開発の初期段階から共同研究を展開され、臨床応用にまで導かれました。本受賞は、以上のような余人をもって代え難い業績が高く評価されたものであります。



### 本学学生が日本薬学会第132年会 学生優秀発表賞を受賞

2012年3月31日開催された日本薬学会第132年会において、本学の学生8名が学生優秀発表賞を受賞しました。

所属分野 微生物・感染制御学分野  
受賞者名 博士後期課程3年次生 林 直樹  
演題 緑膿菌のムチン層透過機構の解析  
演者 林 直樹、堀西 祐多、松川 真理子、庄司 愛、皆川 周、奥田 潤、後藤 直正

所属分野 微生物・感染制御学分野  
受賞者名 6年次生 植田 裕美  
演題 rhamnolipids による *Pseudomonas aeruginosa* の自己溶菌機構の解析  
演者 植田 裕美、尾原 充章、寺井 敏仁、皆川 周、奥田 潤、後藤 直正

所属分野 薬品物理化学分野  
受賞者名 5年次生 中山 佳代子  
演題 膜物性に着目した腫瘍低pH応答性 ナノ粒子の開発  
演者 中山 佳代子、濱 進、板倉 祥子、中井 麻友美、森本 智士、大石 利一、土谷 博之、小暮 健太郎

所属分野 薬品物理化学分野  
受賞者名 6年次生 河原 亜里紗  
演題  $\alpha$ -トコフェロールの脂肪細胞における PPAR $\gamma$  非依存的脂肪蓄積促進作用  
演者 河原 亜里紗、池田 義人、濱 進、土谷 博之、小暮 健太郎

所属分野 薬品物理化学分野  
受賞者名 6年次生 山田 晋一  
演題 インスリン遺伝子の皮内導入による I 型糖尿病治療法の開発  
演者 山田 晋一、小笹 愛弓、濱 進、原島 秀吉（北海道大学）、小暮 健太郎

所属分野 薬品物理化学分野  
受賞者名 6年次生 吉川 蔵  
演題 脂肪肝における鉄代謝異常メカニズムの解析  
演者 吉川 蔵、土谷 博之、濱 進、小暮 健太郎

所属分野 薬剤学分野  
受賞者名 2012年3月博士前期課程修了 田中 晶子  
演題 粉末製剤化医薬品の経鼻吸収性に 関する検討：製剤添加物の影響 II  
演者 田中 晶子、佐々木 伸光、安行 美智、高野 佳津子、松下 明史、榎村 由貴、岡崎 秀太、富崎 麻奈未、本保 亜希乃（同志社女子大学）、井上 大輔（就実大学）、古林 呂之（就実大学）、勝見 英正、坂根 稔康、山本 昌

所属分野 薬理学分野  
受賞者名 6年次生 阪野 江美  
演題 モルモットアレルギー性結膜炎に 及ぼすキマーゼ阻害薬の影響

演者 阪野 江美、上野 友子、雉子谷 百合江、  
北川 由利子、藤井 正徳、  
高井 真司(大阪医科大学)、奈邊 健

以上

### 日本薬剤学会永井財団学部学生 七つ星薬師奨励賞受賞

本学の学生2名が日本薬剤学会永井財団学部学生七つ星薬師奨励賞を受賞しました。

日本薬剤学会永井財団学部学生七つ星薬師奨励賞とは、(財)永井記念薬学国際交流財団の援助のもと、学部学生の研究発表を奨励するため、卒業研究、実務実習等に関する優れた研究発表(口頭発表・ポスター発表)を行った学部学生を表彰するものです。“七つ星薬師”とは、国際薬学連合(FIP)が薬学教育に関する規範GPEP(Good Pharmaceutical Education Practice)として示しているThe Seven Star Pharmacist (Care giver, Decision maker, Communicator, Leader, Manager, Life-long learner, Teacher)の日本薬剤学会独自の和訳であり、いわば医療における理想的な薬学職能人を意味します。ちなみに、漢字を使用する国で、日本以外は“薬剤師”でなく“薬師”という用語が使われています。

所属分野 薬品物理化学分野

受賞者名 6年次生 山田 晋一

演題 経皮投与による

I型糖尿病遺伝子治療法の開発

演者 山田 晋一、小笹 愛弓、濱 進、

土谷 博之、

原島 秀吉(北大大学院 薬学研究院)、

小暮 健太郎

所属分野 薬剤学分野

受賞者名 6年次生 大谷 千明

演題 各種溶解補助剤を用いたcurcuminの  
溶解性ならびに消化管吸収性改善に  
関する研究

演者 大谷 千明、山下 真希、横井 恵、

勝山 麻美、勝見 英正、坂根 稔康、

山本 昌

## お知らせ

### 教育後援会からのお知らせ

4年次生を対象に、医療者のためのくすりの本「治療薬マニュアル」を4月に寄贈しました。学生の皆さんには「病院・薬局へ行く前に」の授業に早速活用することができ、大変喜ばれています。

10月には例年通り教育後援会総会を開催いたします。詳細につきましては別途ご案内させていただきますので、多数のご参加をお待ちしております。

### 人 事

#### 任 命

動物研究センター長 教授 山本 昌  
(任期：2012. 4. 1～2014. 3. 31)

#### 採 用

生命薬科学系生化学分野 教授 中山 祐治  
動物研究センター 講師 西川 哲  
(2012. 7. 1付)

分析薬科学系薬品分析学分野 助手 小西 敦子  
薬学教育系教育研究総合センター

学生実習支援センター 助手 大谷 有佳  
事務局会計課契約係 主幹 高瀬 明  
事務局学生課 事務員 北田 彩  
事務局進路支援課 契約事務職員 山口 梓  
(以上 2012. 4. 1付)

#### 昇 任

事務局学生課 課長補佐 星野 展宏  
事務局進路支援課 課長補佐 井本富美代  
(以上 2012. 4. 1付)

#### 退 職

事務局入試課 契約事務職員 近藤 芳未  
(2012. 3. 31付)

### 名誉教授の称号授与

2012. 4. 1 付

畑山 巧

濱崎 博

### 受 章

平成24年春の叙勲

瑞宝中綬章 名誉教授(元学長) 池田 正澄氏

平成24年秋の叙勲において、長年にわたる教育研究のご功績により、本学名誉教授池田正澄氏が、瑞宝中綬章を受章されました。皆様とともに叙勲の榮譽を心からお祝い申し上げます。

## 京薬会だより

### <2012年度 京薬会代議員総会の開催>

2012年度京薬会代議員総会は5月26日(土)に開催されました。当日は午前中に支部長会、そして午後には代議員総会が開かれました。支部長会に於いては支部長の自己紹介に引き続き、現在の京薬会の抱える諸問題について、さらには支部会活動の活性化について協議されました。また、支部総会の開催予定についても報告されました。総会では2011年度活動報告が西野会長より、決算報告が北出幹事よりなされました。続いて終身会員制ならびに会費等、特別交付金支給基準の見直し等を含む2012年度の活動計画ならびにそれに伴う予算案が報告され、承認されました。

これにより、今年も支部総会、ホームカミング

デー(今年は11月3日土曜日に開催)など同窓生に対する支援を行う一方、大学に対する奨学金の贈呈、クラブ活動、各種行事に対する援助も例年どおり実施し、学生を応援する予定です。

### <ホームカミングデー開催予定>

本年度ホームカミングデーは昨年と同様京都薬科大学学園祭「京薬祭」の開催に合わせて11月3日(土・祝)に開催されます。昨年は前年より多くの先輩方の参加を得ることができましたが、更に多くの卒業生の皆さんの里帰りをしていただけるよう本年は新しい企画等についても考えたいと思っています。

## 京都薬科大学奨学寄附金ご芳名録

下記の方々から寄附をお寄せいただきました。ご協力ありがとうございました。

- \* 高額のご寄附(10万円以上)を頂いた方は、京都薬科大学奨学金規則及び学生便覧に掲載させていただきます。
- \* 敬称略、ご芳名のみ掲載しております。

### 2012年3月～2012年5月に寄附をお寄せいただいた方々

#### <卒業生・同期会等(卒業年次順)>

樫井謙太郎(昭23)	加納 亜子(昭40)	前信加代子(昭43)	森 一二美(昭52)	北口 和代(平04)
生田 量一(昭24)	國貞 真司(昭41)	大槻 雅子(昭44)	新井 理恵(昭55)	森 司(平04)
藤沢平八郎(昭30)	寺坂哲太郎(昭41)	岡村 恭子(昭44)	松井 常孝(昭55)	福庭 誠(平14)
岡本 秀雄(昭31)	宮本 茂敏(昭41)	高越 清昭(昭44)	伊東 哲子(昭56)	宮川 克敏(平15)
永浜 淳子(昭31)	森 道子(昭41)	稲垣 美幸(昭45)	高美 美鶴(昭56)	京薬57会
中道 律子(昭31)	山下 繁克(昭41)	廣安 勉(昭45)	塚田亜由美(昭57)	(昭和57年卒同窓会)
谷本真知子(昭36)	山下三千子(昭41)	北山 純子(昭47)	抱 隆史(昭61)	
中村 悦子(昭37)	谷口 睦子(昭42)	北山 進三(昭48)	荻原 吉康(昭63)	
福田芙美子(昭37)	入江 一充(昭43)	岡本 妙子(昭49)	串田 ゆか(昭63)	
藤木 祥治(昭37)	岡村 武俊(昭43)	夏目 郁子(昭50)	藤原 篤子(昭63)	
深江 暉夫(昭39)	久米 和子(昭43)	三上 正(昭52)	細見 光一(平03)	

#### <法人役員・評議員・職員(五十音順)>

乾 賢一(学 長)	久米 光(評議員)	高山 明(教授)	富永 重夫(課 長)	村山猪一郎(監 事)
加納 良章(主 事)	高美 時郎(評議員)	武田 禮二(理事長)	西口 工司(教授)	森 新(評議員)

#### <元教授>

金澤 治男 藤本 貞毅 村西 昌三

(2012年5月31日現在)